

第 5 回 下野市行政改革推進委員会会議録

日 時 平成 22 年 11 月 19 日 (金) 午後 1 時 30 分 ~ 4 時 00 分
場 所 下野市保健福祉センターきらら館研修室
出席委員 杉原弘修会長、前原保彦委員、飯島陽子委員、金子伸禄委員、須藤純子委員、高山忠則委員、田辺伸一委員、渡辺欣宥委員、関口博之委員
欠席委員 なし
出席者 (健康福祉部)
田中健康福祉部長、上野社会福祉課長、館野児童福祉課長、園部高齢福祉課長、小堀健康増進課長
(総合政策室)
川端総合政策室長
事務局 (総合政策室)
落合総合政策副室長、小口主幹兼課長補佐、金田主幹、古口副主幹、古口主査
傍聴人 2 名

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - (1) 会議録署名人の指名
 - (2) 行政評価市民評価ヒアリング (健康福祉部 6 事業)
- 4 その他
- 5 閉会

会長あいさつ

(事務局) 藤沼委員から退任したい旨の申し出がありましたので、今後、本日まで出席されている 9 名で審議を進めていただきたいと思います。
(前原会長職務代理者) 杉原会長は所用により 15 時頃来られるようですので、職務代理者として指名された私が進めさせていただきます。

議事

会議録署名人の指名

(前原会長職務代理者) 今回は、関口委員と飯島委員をお願いします。

行政評価市民評価ヒアリング（健康福祉部 6 事業）

田中健康福祉部長から、健康福祉部の組織体制、所掌事務の概要説明後、担当課長から事務事業の概要説明（資料 / 下野市行政評価市民評価シート〔平成 22 年度〕）

乳幼児健康診査事業

（小堀健康増進課長） 乳幼児健診は、疾病の早期発見や精神運動発達遅滞等を疑われる乳幼児の把握、早期療育につなげるとともに、最近では子どもの虐待の早期発見と個別支援等により虐待予防を行っています。また、5歳児健康相談は、3歳児健診までに発見されなかった発達障害児や子どものもつ特性により、スムーズな集団生活に支障をきたすと予測される乳幼児と親を対象に発達二次健診や療育、心理相談等につなげ、就学に向けての支援を図るものです。この事業は、乳幼児健診（4か月・9か月・1歳6か月・3歳児）、乳幼児発達二次健診、5歳児発達相談、ファーストブック事業の実施です。総事業費は 1,087 万 9 千円です。

南河内児童館事業

（舘野児童福祉課長） この事業は、地域のこどもに健全な遊びを与えて健康を増進し、子どもたちが自ら考え、判断し、行動し、責任をもつという自主性・社会性を身につけさせることを目的としています。そのため、安全を確保しながら、こども一人ひとりの状態を観察し、個々のペースに応じて自立していくことが出来るよう事業を実施し支援しています。総事業費は 782 万 6 千円です。

子育て支援センター費（ゆりかごに委託している事業）

（舘野児童福祉課長） この事業は、地域全体で子育てを支援する基盤の形成を図るため、子育て家庭等に対する育児不安等についての相談指導、子育てサークル等への支援、地域の保育需要に応じた特別保育事業の積極的な実施・普及促進などの地域の保育資源の情報提供等と地域の子育て家庭に対する育児支援を行う事業です。総事業費は 749 万 1 千円です。

日中一時支援事業

（上野社会福祉課長） この事業の目的は、在宅介護者の負担軽減が確保され、また障がい者の就労等社会活動への参加、自立の支援を図ることです。障がい者等を日常的に介護している家族の一時的な病気等の際に、障がい者の一時的な預かりを実施することによって、介護者の休息等の場を提供するとともに、同時に障がい者への日常的な訓練等を支援するものです。総事業費は 777 万 6 千円です。

福祉タクシー事業

(園部高齢福祉課長) この事業は、電車、バス等の公共交通機関を利用することが困難な高齢者や障がい者の交通手段を確保することにより、通院を支援し外出の機会を増やすことによって、高齢者等の社会生活の向上を図ることを目的としています。具体的には、タクシーの基本料金分が無料となる福祉タクシー券を80歳以上の高齢者と障がい者等に交付するもので、平成23年度の総事業費は1,794万5千円を予定しています。

長寿祝金事業

(園部高齢福祉課長) この事業は、長寿を祝し、併せて市民の間に広く老人福祉についての関心と理解を深めるとともに、高齢者自らが心身の健康の向上に努める意欲を促すことを目的とすることによって、介護保険料の軽減を図ることを目的としています。市民の長寿を祝し、敬老祝金及び100歳長寿祝金を贈呈するもので、平成23年度の総事業費は3,030万3千円です。

乳幼児健康診査事業に係る質疑

(飯島委員) この検診は、親が住民登録をしていれば受けられるのですか。外国人も受けられるのでしょうか。個別の小児科医院では、検診できないのでしょうか。

(小堀健康増進課長) 市に住所があれば受診できます。外国人も対象にしておりますので案内状を送っています。外国語の対応は、国際交流協会にも協力をお願いしています。集団検診は保護者同士の情報交換も図れるので実施しています。

(関口委員) 1歳6ヶ月と3歳児だけ法律で定められているとのことですが、その他の時期の健診はどうですか。

(小堀健康増進課長) その他の健診は、市の独自事業として実施しています。

(金子委員) ゆうゆう館だけで実施されるようになったとのことですが、支障はないですか。

(小堀健康増進課長) 従来はきらら館とゆうゆう館で実施してきましたが、きらら館は15~20名、ゆうゆう館は25~30名でした。現在はゆうゆう館のみで実施していますが、クレームはないようです。

(前原会長職務代理者) どういう面で効率性を図ろうとしていますか。

(小堀健康増進課長) 疾病の早期発見だけでなく、児童虐待対策など市民が満足していただけるような対策をしていきます。

(前原会長職務代理者) 評価シートの意図欄に「3歳児健診までに発見されなかった

発達障害児」とは、受診しなかったということですか。

(小堀健康増進課長) 受診していても学習的な面など、成長しないと発見できないケースもありますが、その場合は5歳児健診で担保しています。

南河内児童館事業に係る質疑

(関口委員) この事業は、下校後、親が帰宅するまでの預かりを意図していると思いますが、そういったことを意図欄へ書く必要がないのでしょうか。

(館野児童福祉課長) 委員の趣旨は学童保育と思いますが、児童館には0歳~18歳の子どもたちが自由に来るので学童保育と異なります。ただ、児童館と学童保育を併設しているケースもあります。また、学校では空き教室を利用して学童保育も実施しています。

(田中健康福祉部長) 学童保育は、国分寺地区と南河内地区は児童館に併設している箇所があります。安心・安全から見ると、学童保育は学校内で行う方が良いと思います。

(関口委員) 学童保育を別にすると、児童館は下野市に一つですか。

(田中健康福祉部長) 5カ所あります。

(関口委員) 1年のうち293日開館して利用者も12,933人いるようですが、児童館として意図どおりに来ている人はどれくらいですか。

(館野児童福祉課長) 国分寺駅西児童館の例では幼児2,278名、小学生2,553名、中学生787名、高校生186名、父兄3,946名で合計9,750名利用しています。

(高山委員) 意図として「個々のペースに応じて自立していくことが出来るよう」とありますが、これはどういう意味ですか。

(館野児童福祉課長) 低学年から高学年である程度区分けして、低学年は映画やトランプ、高学年は卓球などを行っています。子どもたちの発達ペースにあわせた遊びを通じて、自立できるような場を提供しています。

(高山委員) 開館時間は9時から17時ですが、午前中の利用はあるのですか。

(田中健康福祉部長) 午前中は職員による準備や、親子教室の場合は親子による準備をしています。また、来館した親などに子育て相談を行っています。

(高山委員) では、例えば午前11時から午後11時にした方が利用しやすくなるのではないのでしょうか。高校生の利用もあるなら、開館の時間帯を見直しても良いのではないですか。

(田中健康福祉部長) 子どもを対象にしておりますので、深夜に開館するのは望ましくないと考えます。また、高校生には夜は自宅で勉強して欲しいと思いますので、今の時間帯が適切だと考えています。

(金子委員) 民間委託の手法検討はどのようなものですか。また県内でやっているのですか。

- (館野児童福祉課長) 他市町村では民間委託している事例がありますので、本市でも指定管理などを検討していきたいと思います。
- (須藤委員) 幼児に対しては、指導員がつくのですか。
- (館野児童福祉課長) 指導員は保育等の相談を行っており、相談している方の幼児は、子ども連れで来館する他の利用者に面倒をみてもらったりしています。
- (須藤委員) 報酬は指導員 2 名に対してのようですが、民間委託して効率性が図れますか。また、事業費減少の理由は何ですか。
- (館野児童福祉課長) 2 名の他に臨時的な指導員もいます。これは市で一括して予算化していますので、ここには含まれておりません。また、事業費の減少は実績に応じた減少です。
- (関口委員) 他の児童館は評価対象となっていないませんが、他の児童館は 500 万円以下の事業費ですか。
- (田中健康福祉部長) 健康福祉部全体で評価していただく事業は 6 つですが、児童館事業を 5 つも評価対象としてしまうと他の事業を評価していただけなくなりしますので、比較的大きな事業である南河内児童館をあげました。
- (事務局) 他の児童館事業も含め、市全体では約 500 の事業がありますが、一定の基準を満たして市民評価の対象となる事業は、お手元の資料 11 に掲載しています。ただ、委員会で全てを評価していただくのは物理的に困難ですので、その中で市の裁量のある 120~130 事業を選定しています。
- (関口委員) 学童保育事業は別の予算ですか。
- (館野児童福祉課長) 1 階は児童館、2 階は学童保育といった感じで別予算にしています。共通部分は児童館の予算へ概ね計上しています。
- (田辺委員) 利用人数の 12,933 人は、南河内エリアの何%ですか。
- (館野児童福祉課長) 利用人数は延べ人数ですので、同じ人が何回も来ている場合は、その回数分が積算されます。一概に言えませんが、利用層は近隣の小学校が多いと思います。
- (田辺委員) 利用は無料ですか。
- (館野児童福祉課長) 無料です。ただ、イベント時は有料の場合もあります。
- (飯島委員) 日祝日を休館日にしていますが、共働きの家庭が多いと思いますので、日曜だけでも開館できませんか。
- (田中健康福祉部長) 健康診断時や児童館来館時にも相談を受けておりますし、電話相談もしています。日曜日の開館は検討課題ですが、今の状態でも対応はできていると思っています。
- (前原会長職務代理者) 高校生の利用者が小学生と遊んでいるケースはあるのですか。
- (田中健康福祉部長) 高校生と小学生の交流はあまりないと思います。高校生は中学生と卓球を一緒にやっています。
- (前原会長職務代理者) 健全な遊びの例として、雑木林を一緒に歩くとか、そういう

機会で社会性が得られるのではと思います。

子育て支援センター費に係る質疑

- (前原会長職務代理者) 場所は薬師寺地区だと思いましたが、石橋地区や国分寺地区から要望は出ていないですか。
- (館野児童福祉課長) 国分寺地区には、ゆうゆう館の中に「つくし」という子育て支援センターがあります。一方、石橋地区には支援センターはありませんが、本事業の委託先の「ゆりかご」と「つくし」から、きらら館などに出向いていただいて、いくつかの事業をしています。下野市内の支援センターは二箇所です。
- (須藤委員) 利用料はとっているのですか。また、委託先はあおば保育園だけですか。
- (館野児童福祉課長) 利用料は無料です。
- (田中健康福祉部長) 委託先ですが、最近の法律では認可保育をつくる場合は支援センターを併設することになっています。国から補助を受けるにあたって、市内で一番新しいあおば保育園に支援センターの機能も加えて委託することにしました。
- (飯島委員) 担当課では事業内容を見直しながら実施するとしていますが、どうやって見直すのですか。
- (田中健康福祉部長) 消耗品などの削減余地を検討していきます。
- (高山委員) 休館日の日祝日を、月何回か開館することはできないのですか。
- (田中健康福祉部長) 民間の保育園で行っている支援センター自体は、土日祝日が閉館です。保育園では土曜日保育も行っておりますが、多方面からの検討が必要だと思います。
- (関口委員) 185万円の国の補助の内容は何ですか。
- (館野児童福祉課長) 人件費や医薬材料費など、運営上必要な経費です。
- (関口委員) 子どもの預かりサービスはないのですか。
- (館野児童福祉課長) 保育園としての機能が10割で、子育て支援は一部実施しています。
- (前原会長職務代理者) 事業シートの意図欄の「保育資源の情報提供」とは何ですか。
- (館野児童福祉課長) 保育を支援する施設の紹介などです。
- (田辺委員) 利用者の声など、満足度調査は実施しているのですか。
- (田中健康福祉部長) 委託先から受ける報告書の中で、問題点があれば市として対応していますが、概ね満足度は高いようです。

日中一時支援事業に係る質疑

- (飯島委員) 18歳未満の利用が多いとのことですが、大人は利用しないのですか。
- (上野社会福祉課長) 障がい者手帳が交付されている方を対象としておりますので大

人も可能ですが、一時的な預かりですので利用者の9割が18歳未満です。

(飯島委員) 指定委託事業者とは、どのような形で行っているのですか。

(上野社会福祉課長) 事業所と市が契約して、その中から利用者が事業所を選択しています。

(関口委員) 国と県の補助は、どのくらいですか。

(上野社会福祉課長) 総事業費の2分の1が国補助、4分の1が県補助です。

(前原会長職務代理者) 評価シートに「社会に適応する為の日常的な訓練や支援サービスを行う」と書かれていますが、一時的な預かりで利用者は社会に適応していけるものなのですか。

(上野社会福祉課長) 利用者は未就学児からいますので、早い段階から集団生活に慣れることで社会性を育てていきたいと考えています。

(飯島委員) 例えば、利用回数などの利用条件は決まっているのですか。

(上野社会福祉課長) 月の利用時間や利用回数は、障がいの程度や家庭の状況で異なりますが、事業所によっては相談に応じてもらえます。

(飯島委員) 利用時間が少ないのではないのでしょうか。

(上野社会福祉課長) 利用時間に病院等へ通院される介護者が多いようです。

福祉タクシー事業に係る質疑

(須藤委員) 対象者への周知は、どのように行っていますか。

(園部高齢福祉課長) 市の広報や民生委員などを通して、お知らせしています。

(金子委員) 過去の実績はどうですか。

(園部高齢福祉課長) 平成21年度は対象者4,316人のうち、利用件数は23,848件で、1,627万7千円です。

(金子委員) 利用者の内訳はどうなっていますか。

(園部高齢福祉課長) 平成21年度の利用者数4,316人の内訳は、高齢者3,184人、障がい者1,132人です。また、利用件数23,848件の内訳は、高齢者20,280件、障がい者3,568件です。

(金子委員) 利用は月3回で、年間36回という制限があるのですか。

(園部高齢福祉課長) 申請時期にもよりますが、月3回利用して、年間最高で36回となります。

(飯島委員) タクシーしか利用できない人たちも多いと思いますが、金額を増やせないのですか。

(園部高齢福祉課長) 年々事業費が増加しておりますので、増額は困難と考えています。

(前原会長職務代理者) タクシー券は申請により渡しているのですか。

(園部高齢福祉課長) 本人からの申請によりタクシー券を交付しておりますが、本人だけでなく代理人による申請も可能です。

- (飯島委員) 所得に応じたタクシー券の配布は考えられませんか。
- (園部高齢福祉課長) 対象者の範囲なども検討しましたが、その結果が現在に至っています。
- (前原会長職務代理者) 評価シートの「受給対象者を維持すべきかどうか課題」とは、どういう意味ですか。
- (園部高齢福祉課長) 一人暮らし老人に絞るなどの検討です。
- (関口委員) 申請者が何回利用したか調べていますか。
- (園部高齢福祉課長) 個人ごとの集計は事務量が膨大ですので調べていません。
- (関口委員) 個人ごとの集計をすると、対象者の維持に関して検討しやすいと思います。

長寿祝金事業に係る質疑

- (金子委員) 75歳以上を対象にしたのは、いつ頃からですか。
- (園部高齢福祉課長) 昭和35年頃からです。
- (金子委員) 昨今の高齢化からいっても、金額も高いので廃止にしてもいいと思います。
- (高山委員) 合併前は8,000円の支給だったと思いますが、75歳以上が増えたから5,000円へ減額したのですか。
- (園部高齢福祉課長) 合併前は3町で金額が異なっていました。合併当時の平成18年度は75歳以上は6,000円、80歳以上は8,000円としていましたが、平成19年度に財政的事情により見直しを行い、75歳以上一律5,000円になりました。
- (飯島委員) お金でなく、例えば子どもが作ったものを民生委員が自宅へ手渡しするというのもいいと思います。
- (田中健康福祉部長) 個人情報保護の観点から、民生委員に名簿を提供できない状況です。民生委員が訪問するのを、人によってはいやがる場合もありますが、飯島委員のご意見の主旨は大事だと思っています。
- (関口委員) 100歳への祝金は良いと思いますが、75歳以上は廃止しても良いと思います。
- (田辺委員) 私もやめて良いと思います。やめた予算を同じ対象者の医療などに、将来的には使った方がいいと思います。
- (園部高齢福祉課長) 祝金を廃止する代わりに敬老会事業を充実させたいところですが、関係者のご理解が得られておらず現在に至っています。県内の実施状況では、鹿沼市と下野市のみが祝金事業を実施しています。
- (金子委員) 100歳到達者の見込みはあるのですか。
- (園部高齢福祉課長) 平成23年で10人の見込みです。
- (関口委員) 高齢者の外出を促進するため、祝金でなく敬老会などの充実を図るべきだと思います。

- (高山委員) 自治会の中には高齢者を祝しているところもあります。そのような自治会を行政も応援した方が、祝金を渡すよりもいいと思います。
- (田中健康福祉部長) 地域での取り組みは大事だと考えています。
- (飯島委員) 高齢者の方々は好みや趣味も違いますので、敬老会をやる場合でも出席したいと思うような魅力あるものにしていただきたいと思います。
- (田中健康福祉部長) 全体よりも小さな単位で、地域ごとにふれあいの場でお祝いした方が良いと思っています。
- (杉原会長) 私も祝金はなくてもいいと思いますが、外出することは大事でしょう。外出して人と話している老人の方が社会的にも良いはずです。敬老会を現代の社会に合うようなものにしたら良いものになるはずです。関係者との調整は出てくるでしょうが、ある程度行政主導で決断しても良いのではと思います。
- (前原会長職務代理者) 全体を通して質問はありますか。
- (杉原会長) 21ページの事業概要で「介護者の休息等の場を提供」とは何ですか。
- (上野社会福祉課長) 「場」という空間より「時間」ですので、表現を訂正させていただきます。
- (須藤委員) 15ページのファーストブック事業とは、どのようなものですか。
- (小堀健康増進課長) 9ヶ月の子どもへの絵本のプレゼントと読み聞かせを行うものです。
- (前原会長職務代理) 他にご質問がなければ終わりにします。事務局から何かあればお願いします。

その他

- (事務局) 次回は、平成22年11月22日月曜日の午前9時から、ゆうゆう館で経済建設部8事業を行います。よろしくお願いします。

以上